

# ★ 星空舞のブランド化を支える栽培指針(2022年版) ★

収量・品質・食味を高水準で維持するための指針を拡充しました。

## 2021年までに明らかになったこと

- 1 標高地帯別の生育指標・水管理指標を守る。
- 2 栽培を推進する地域は平坦地帯から標高500m程度の山間地帯まで。
- 3 移植適期は平坦・中間地帯は5月中下旬、山間地帯では5月上旬。
- 4 最適な植付け密度は坪あたり50～60株(株間18～22cm)。
- 5 分施肥体系の基肥窒素量は3kg/10aで、穂肥Ⅰは幼穂長8～10mm時に、穂肥Ⅱはその7～10日後に葉色診断をして施用する。
- 6 基肥一発体系の総窒素量は、6kg/10aで、緩効性肥料の溶出タイプは90日、速効性と緩効性の比率は4:6が望ましい。
- 7 収穫適期の出穂後有効積算気温は、平坦・中間地帯で620～770℃・日、山間地帯で510～620℃・日。積算気温は、平坦・中間地帯で1008～1260℃、山間地帯で920～1170℃。



## 2023年～新たに作付可能

### 大豆跡



基肥:施用なし。  
穂肥Ⅰ:葉色診断に応じて施用。  
穂肥Ⅱ:施用なし。

### 排水不良 高地力



※生育過剰となる水田  
基肥:0～2kg/10a  
穂肥Ⅰ、Ⅱ:葉色診断に応じて施用。

### レンゲ 跡



※但し1トン未満

基肥:施用なし。  
穂肥Ⅰ、Ⅱ:葉色診断に応じて施用。

## 【新たにわかった水管理指標】

中干し過ぎは×。  
幼形期や出穂20日後も適度な硬さに保つことが重要。

地帯	土壌硬度(mm)		
	中干 終了時	幼形期	出穂 20日後
平坦(0～150m)	11	3～10	3～6
中間(150～300m)	11	1～8	4～7
山間(300～500m)	11	2～7	1～8



詳しくは別資料や最新の星空舞栽培手帳をご覧ください☆



(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場 作物・環境研究室 TEL: 0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい